

ひろ とみ
廣 富 純

生年月日 1979年5月兵庫県生まれ
最終学歴 2005年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻
修了
業務経歴 2005年株式会社藤総合計画入社
現在、同社関西事務所主
任担当
●担当した主なプロジェクト
2007年 秋川溪谷「瀬音の湯」
2009年 名古屋地家裁豊橋支部庁舎
2011年 山口県維新百年記念公園
陸上競技場
2013年 佛教大学紫野キャンパス
新1号館
2013年 東山中学高等学校南エリア
校舎・講堂棟
2014年 社会福祉法人あまーち
拠点施設

■青年技術者のことば

建築士の仕事をする中で最も強い喜びは、建物や土地の望ましい在り方を議論することを通して、クライアントが自らの「真のニーズ」に気付いていく過程に同席できることだ、と感じる。建設することは、彼らの抱える多くの課題をクリアするための一つの手段でしかない。だからこそ、設計要件は建物と直接関係のないように思える部分に隠れていることが多い。そこに到達することは、事業主が事業そのものをしっかりと見つめ直した結果に他ならず実に哲学的だ。

一方で、建築士の役割は「土地の価値を高める」ことだと感じる。どうすれば「土地」と「人の活動」を関連付け、整えていくことができるのかを自問する日々。果たして建設行為が土地の価値を高めるのか、他に手段はないのか、そこから考えることにしている。フェーズの異なる意識が混然一体となり、それでも建築士という仕事を続けようと思うのは、「よい建物は地域の財産だ」と信じているからに他ならない。「よい建物」に確固たる定義をするつもりはない。千差万別の土地と活動の間で、自分の関わる時間自体をデザインしていければ、と願っている。

■すいせん者

吉田諭司
(株)佐藤総合計画関西事務所
執行役員関西事務所長



佛教大学は京都市の知恩院を起源とし、2012年に開校100周年を迎えた。

住宅街に立地する狭隘なキャンパスの再整備事業として、「ひびきあうキャンパス」をコンセプトに、老朽化した既存校舎群を順次解体しその跡地に新築していくことで、近代的なキャンパスとして整備する。

2013年2月には高層棟約19,000㎡が竣工・供用開始されており、引き続き低層棟及び礼拝堂（らいはいどう）の建設が行われている。

5層吹抜けのアトリウムは、キャンパスの延長として位置付けられ、多様な学生ラウンジがひと繋ぎの空間に立体的に配置されている。学生は自分たちの活動に合わせて場所を選択する。互いの異なる活動が見える空間構成は「ひびきあう」ことをアフォードし「自由選択」という豊かさを大学生活に与えている。

撮影：近代建築社

社会福祉法人 あまーち 拠点施設



「あまーち」とは、尼崎を拠点に専ら重度の身体障がいを持つ方の社会生活をサポートする障がい者福祉施設だ。規模拡大のニーズに応じて新しい施設を計画することになった。

あまーちの要望は一つ。「地域の中でその人らしく」生きていくことを後押しできる施設計画。そこで我々は、日常の介護活動という特殊用途に最適な空間を設える道程に、「窓をつくる」というサブテーマを掲げて設計活動を進めることにした。

「建設活動に対する窓」と、「地域・社会に対しての窓」。これらを作ることで、あまーちのエンドユーザーである重度の身体障害を持つ方が主体となった施設計画と施設運営を目指している。